

ロザリオのマリア聖堂

聖堂について

聖堂は、お祈りをするための場所です。カトリック教会の最高の祈りであるミサをはじめとした典礼（公式の共同の祈り）が祝われます。御御堂（おみどう）とも呼ばれます。ここでは、卒業生が結婚式を挙げることもあります。

一緒にお祈りしてくださる方は、どなたでも歓迎いたします。お祈りの場ですので、静粛を心がけてください。



学校開設のために仙台に赴任した4人の修道女の尽力によって、現在の仙台白百合学園が小さな歩みを始めたのは1893年のことです。以来、仙台市の中心部、花京院の土地で105年の歴史を築き、その間、市民の皆様に支えられ、多くの卒業生を送り出してきた本学園は、1998年春、この地、泉区紫山へ移転してまいりました。

創立以来住み慣れた地を離れるに際し、未来に向けて新しい歴史を刻むキャンパスにどのような特徴をもたせたらよいかを、いろいろ考えることになりました。多くの教職員、学園関係者の意見は、建学の精神である聖書の教えを実現する場所としてこのキャンパスをとらえ、そのシンボルとして、是非誰もが訪れることが出来る聖堂をその中心に置きたい……そして、そこには美しい音色のパイプオルガンを……というものでした。

美しい光の中に響く柔らかいオルガンの音はまさに天上の響きとして子供たちの心に何かを呼びかけてくれるはず。「青春の日々にこそ、あなたの創造主に心を留めよ。」という呼びかけが、このような場所でこそ若い人達の心に素直にこだまするのではないのでしょうか。たくさんのパイプが並び立つオルガンの姿は、心を合わせ祈り、互いに力を合わせて生きる私たちすべてのシンボルでもあります。祈りの空間としてこの聖堂にふさわしい楽器として計画され、心を込めた手作業で作られられたオルガンが多くの人々に愛され、その美しい調べがここに集う人達へ慰めと喜びを与え続けることを祈っています。

（1998年12月 学校長 スール 三ツ谷 絢子）

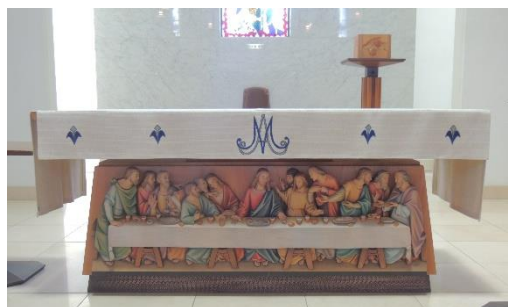


聖水



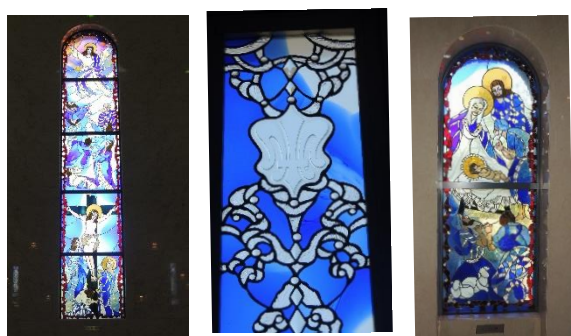
聖堂の入口には、祝福された「聖水」があります。カトリックの信者は、聖堂に入るときに、聖水に指を浸して十字を切る習慣があります。洗礼を受けた時のことを思い起こし、心を新たにするためです。また、聖堂を出た後も、神様に見守っていただくことを願い、再び同じことを繰り返します。

祭壇



聖堂の正面には、聖堂の中心となる祭壇があります。レオナルド・ダ・ヴィンチの『最後の晩餐』がモチーフとなっています。神聖な場所ですので立ち入りはご遠慮ください。

ステンドグラス



ステンドグラスは卒業生により制作されました。世界で最も美しいと言われる、フランスのシャルトル大聖堂と同じシャルトル・ブルーが使われています。ステンドグラスには、イエス・キリストと聖母マリアの生涯の大事な場面が描かれています。

十字架道行



イエスが死刑の宣告を受け、十字架に架けられ、死に葬られ、復活した様子が描かれています。十字架の道行きを通して、イエス様が十字架の苦しみを負ってまで貫いた愛を黙想し、お祈りします。

パイプオルガン



フランス古典派の音色が響くパイプオルガンは、1998年の紫山移転に合わせて、同窓会の寄付によってつくられました。教会の中で発展してきたパイプオルガンは、会衆の歌を支える大切な役割を果たします。ミサや宿泊学習前の集いなど、生徒が演奏することもあります。

鐘楼

毎日、朝・正午・夕方の3回、時を知らせてくれます。上から FIDES (信仰)・SPES (希望) CARITAS (愛) の名前がつけられています。

